



## 続報 ! ブラジル火災 !

— 西日本防災システム

2018 09 17

リオデジャネイロの国立美術館で発生した火災

NBS 119

1818年に設立された出火元の博物館は、ブラジル最古の科学機関で南米でも最大級の施設で、大変貴重な2000万点の品が収蔵されていましたが、その90%以上が焼失したようです。収蔵品には、南米最古の人類化石とされる1万1500年前の頭蓋骨「ルチア」や、ブラジル固有の恐竜マシャカリサウルスの骨格などが含まれているそうです。

建物自体も、歴史的に重要な意味を持っていて、もともとは、ナポレオンから逃れるために1807年にリオデジャネイロに渡ってきたポルトガル王家が、1808年から1821年にかけて暮らしていた邸宅だったそうです。ブラジルの独立後、1889年まで皇帝の宮殿として使われ、1902年に収蔵品が運び込まれて博物館となりました。

化石やエジプトのコレクション、無脊椎動物の標本など、博物館の本館に収められていた多くの品々は焼失したものとみられるようです。魚、爬虫類、植物の標本や蔵書は別の建物に収められているため、焼失を逃れたようです。出火原因は何なのでしょう？



西日本防災システム

NISHINIHON BOHSAI SYSTEM Co., Ltd

<http://www.nbs119.co.jp/>



弊社top pageへ 